九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Expression of Bcl-2 19-kDa interacting protein 3 predicts prognosis after ampullary carcinoma resection

藤本, 崇聡

https://doi.org/10.15017/1806904

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏　　名：藤本　崇聡

論 文 名：Expression of Bcl-2 19-kDa interacting protein 3 predicts prognosis after ampullary carcinoma resection
（Bcl-2 19 キロダルトン結合蛋白 3 発現は十二指腸乳頭部癌切除後の予後予測因子となる）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

十二指腸乳頭部癌（AC; ampullary carcinoma）は稀な腫瘍であり，適切な治療戦略は確立されていない．この研究の目的は，特定の分子マーカーを用いて AC に対する適切な治療法を決定することである．AC に対し治癒切除を行った 41 例の患者の臨床病理学的背景を後ろ向きに検討した．免疫組織化学染色を用いて，S-1 の感受性マーカーであるチミジル酸シンターゼ (TS; Thymidylate synthase)と，ゲムシタビンのマーカーである Bcl-2 19 キロダルトン結合蛋白 3 (BNIP3; Bcl-2 19-kDa interacting protein 3)の発現を評価した．これらのマーカーの発現強度と臨床病理学的データの関係を検討した．全 41 例の術後 5 年全生存率は 62%であった．リンパ節転移陽性，神経浸潤陽性，リンパ管浸潤陽性，BNIP3 高発現が，単変量，多変量解析において予後不良因子であった。TS，BNIP3 発現は，いずれも術後補助化学療法を受けた患者の生存率や再発率の予測因子とはならなかった．結論として，BNIP3 発現は AC の予後予測因子となりうる．一方，TS，BNIP3 発現は現行では術後補助化学療法の選択マーカーとしては使用できない．